

志賀原子力発電所敷地内シーム追加調査計画の変更について

平成25年9月26日
北陸電力株式会社

当社は、「敷地内破碎帯の追加調査計画」について、最終報告時期を9月末から12月下旬へ変更する変更計画を原子力規制委員会に報告しましたのでお知らせします。

当社は、原子力安全・保安院からの指示文書「敷地内破碎帯の追加調査計画の策定について(指示)」(平成24年7月18日)に基づき、「敷地内破碎帯の追加調査計画」を策定し、調査を実施してまいりました。

現在、平成25年6月25日に提出した追加調査計画に基づき、敷地内シームと周辺断層の関連性に関する調査及び発電所敷地周辺の小規模な断層の活動性に関する資料のとりまとめを実施しているところですが、更なる詳細な調査を実施するため、本日(9月26日)、最終報告時期を9月末から12月下旬へ変更する変更計画を原子力規制委員会に報告いたしました。

当社は、引き続き、徹底した調査に取り組み、志賀原子力発電所の安全性・信頼性の更なる向上に努めてまいります。

以上

(添付資料)・敷地内シームに関連する追加調査の状況と調査工程の延長について
・調査工程

敷地内シームに関連する追加調査の状況と調査工程の延長について

●調査状況

① シームS-1
 ・12～13万年前以降の活動がないとする新たな調査結果や、シームS-1南東端が福浦断層まで連続しない調査結果を取得。

② 周辺断層の活動性
 ・福浦断層の北端・南端の位置を再確認。
 ・兜岩冲断層について、新たな調査結果も含めて再整理し、あらためて、同断層が12～13万年前以降活動していないことを確認。

●課題
 ・表土はぎ調査の結果、福浦断層の可能性がある露頭を確認したため、引き続き調査が必要。
 ⇒ **最終報告を12月下旬に延長する。**

●今後の調査について

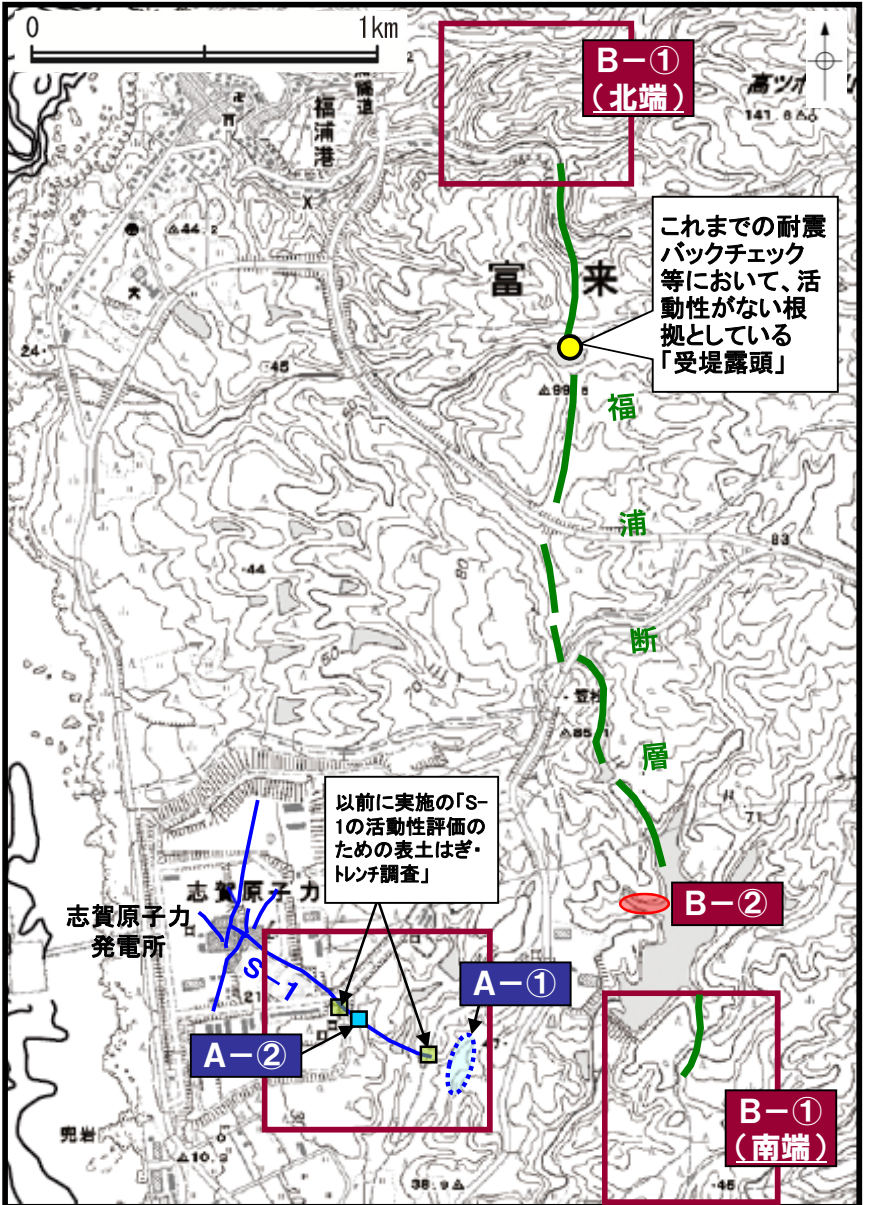
【福浦断層関連】

① 露頭周辺(B-2)における地質データの収集・分析
 ② 福浦断層全体の調査として、地表地質踏査、ピット調査等を引き続き実施

【その他】

③ 福浦断層調査の期間で、その他の調査もデータ拡充

調査内容	9月	10月	11月	12月
①		①, ②, ③		
②				
③				
最終報告				とりまとめ



調査区分

シームS-1

6月6日の調査報告以降の追加調査・データ整理の状況

A-1 ホーリング調査によるシームS-1南東端の確認
 ・これまで確認したシームS-1南東のさらに南東方(●)でホーリング調査を実施した結果、シームS-1はこのエリアで止まることを確認。

A-2 敷地内トレンチの追加による活動性の確認
 ・シームS-1に関して活動性を評価するため、これまでの2地点(■)に加え、高位段丘I面に位置する、3地点目のトレンチ(■)を行い、これまで同様、少なくとも12～13万年前以降の活動がないことを確認。

トレンチ状況(西壁面) ←シームS-1

周辺の小規模な断層

B-1 福浦断層の端部の確認(北端)
 ・福浦断層北端延長部における河床部での表土はぎ調査の結果、福浦断層は北に延びないことを確認。

河床部の表土はぎ状況

(南端)
 ・南端延長部に広く分布する高位段丘I面(■)には変動地形が認められないことを確認。

B-2 福浦断層南部の表土はぎ調査
 ・●地点における林道沿いの表土はぎ調査(写真)の結果、福浦断層の可能性がある露頭を確認。

表土はぎ状況

【引き続き実施する調査】
 ・トレンチ調査・火山灰分析等(確認した露頭の周辺部を調査することにより、上載地層の状況から活動性等の確認を行う)

C-1 海上ホーリング調査(○)・海上音波探査(≡)・陸上ホーリング調査(●)の結果の分析・データ整理

・耐震バックチェック審査に加え、審査終了以降に実施した海上ホーリング調査、海上音波探査、陸上ホーリング調査のデータ分析も含めて堆積層の分布、年代等を再整理し、あらためて、同断層が12～13万年前以降活動していないことを確認。

海上ホーリング調査状況

海上音波探査状況

海上ホーリング調査状況 ※H20年3月バックチェック中間報告提出

- 海上ホーリング調査: H22年実施
- 高浜地区海上音波探査: H21年実施
- 高浜地区陸上ホーリング調査: H21,22年実施

<参考>用語解説

露頭(ろうとう)	地層や岩石が土壌や植生に覆われることなく、直接露出している場所。
段丘面	海岸や河岸に見られる階段状の地形。海岸や海底、川原に地層がたまと平らな面ができ、地盤の隆起や海水準の低下によりその平らな面が残っているもの。
高位段丘面	中位段丘面より高い標高に分布し、中位段丘面より古い時代に形成された段丘面を高位段丘面という。なお、高位段丘I面は、約20万年前の段丘堆積物により形成されたと考えられる。

調査工程

指示内容	項目	工程																		
		平成24年						平成25年												
		7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
		調査計画提出 ▼					中間報告 ▼							報告 ▼						最終報告 ▼
1 破砕帯の性状を直接確認するための適切な場所を選定した上で、必要な調査を実施すること	S-1の性状に関する調査 ・1号機原子炉建屋下のS-1を対象とした岩盤調査坑の掘削、地質観察等 ・岩盤調査坑掘削時の諸計測の実施 ・海岸部にある亀裂等の性状の確認及びS-1との比較			準備工	立坑掘削	準備工	横坑掘削(STEP1)	横坑内計測	横坑掘削(STEP2)	(STEP1)										
							地質観察・薄片観察		地質観察・薄片観察(STEP2)											
							海岸部にある亀裂等の性状の確認	S-1との比較・検討	S-1との比較・検討(STEP2)	(STEP1)										
2 周辺の小規模な断層(福浦断層等)の活動性の有無を含め、破砕帯と周辺の断層との関連性の調査を実施すること	挟在物に着目した活動年代に関する調査 ・試料分析								分析	分析(STEP2)	(STEP1)									
	S-1の詳細位置に関する調査 ・ボーリング調査、表土剥ぎ調査等			準備工	表土はぎ調査、ボーリング掘削等・観察・分析															
	変更前の地形等に関する調査 ・人工変更前の空中写真に基づく地形解析(DEMの作成) ・周辺段丘面を構成する堆積物の年代の把握(火山灰分析等) ・周辺段丘面(敷地外)に関する詳細調査			DEM作成	解析・判読															
							ピット調査等													
3 破砕帯等の活動年代を特定するための資料を提示すること	周辺の断層の活動による敷地地盤への影響の検討 ・地盤モデルを用いた変動解析								解析											
	周辺の断層との関連性に関する調査 ・S-1と福浦断層間の地表地質踏査(必要に応じて、ボーリング調査、ピット調査) ・S-1と兜岩沖断層間の海岸部、沿岸海域の地形、地質構造等の確認						予備調査	表土剥ぎ調査、ピット調査等												
									調査・確認											
3 破砕帯等の活動年代を特定するための資料を提示すること	S-1等に関する資料 ・現地調査を含む審議資料等のとりまとめ								とりまとめ											(※)
	周辺の断層の活動性に関する資料 ・福浦断層、兜岩沖断層の活動性に関するバックチェック審議資料等のとりまとめ								とりまとめ											

※ : 周辺段丘面(敷地外)に関する詳細調査結果及びS-1等に関する資料については、周辺の断層との関連性に関する調査に含めて報告する。

【凡例】

計画	実績	予定
----	----	----